

未受精卵子および卵巣組織の凍結・保存に関するガイドライン

2013 年 9 月

一般社団法人日本生殖医学会倫理委員会は、近年の未受精卵子および卵巣組織凍結技術の急速な進歩とその臨床応用の現況を考慮し、この技術の安全性を十分に確保し、利用希望者による正確な理解を援助・促進するために必要な、利用者と提供施設双方において留意すべき事項を検討してきた。ここに、約 1 年半にわたる 7 回の協議に基づき、検討結果を「未受精卵子および卵巣組織の凍結・保存に関するガイドライン」として提示する。

本ガイドラインは、未受精卵子および卵巣組織凍結技術の適応について、悪性腫瘍の治療等、医学的介入による性腺機能の低下をきたす可能性を懸念する場合を「医学的適応」、加齢などの要因により性腺機能の低下をきたす可能性を懸念する場合を「社会的適応」として区別し、それぞれについて留意すべき事項を提示した。その理由は、前者が未受精卵子および卵巣組織凍結技術の本来の適応であり、原疾患の治療へ影響を及ぼす可能性など、安全性の確保等についてより根本的かつ基本的な問題にかかわっていることから、後者より丁寧で十分な説明と配慮が必要であると本委員会が判断したからである。

なお、妊娠・分娩をするかしないか、その時期を何時にするかはあくまでも当事者の選択に委ねられる事項であり、本ガイドラインは未受精卵子あるいは卵巣組織の凍結・保存の実施を推奨するものではない。また、母児の合併症やさまざまなリスクを考慮すると、妊娠・分娩には適切な年齢が存在するのであり、本ガイドラインは、未受精卵子あるいは卵巣組織の凍結・保存とそれによる妊娠・分娩時期の先送りを推奨するものでもない。

一般社団法人日本生殖医学会倫理委員会

石原理（委員長：産科婦人科学）

市川智彦（泌尿器科学）

苛原稔（産科婦人科学）

押尾茂（薬学）

梶原健（産科婦人科学）

久具宏司（産科婦人科学）

柴原浩章（産科婦人科学）

吉村泰典（産科婦人科学）

家永登（外部委員：家族法学）

上杉富之（外部委員：文化人類学）

長沖暁子（外部委員：社会学）

廣野喜幸（外部委員：生命倫理学）

「未受精卵子および卵巣組織の凍結・保存に関するガイドライン（案）」作成に関する倫理委員会の開催日及び検討内容

- ・ 第82回 平成24年3月16日（金）15時～17時
「医学的および社会的理由による卵子凍結の現状」の報告・検討
- ・ 第83回 平成24年6月8日（金）17時30分～19時30分
「血液疾患治療における不妊対策」の報告・検討
- ・ 第84回 平成24年9月21日（金）13時～14時
「各国の配偶子および卵巣・精巣の凍結保存に対する規制・指針」の報告・検討
- ・ 第85回 平成24年12月7日（金）14時～16時
「社会的な配偶子（卵子）凍結保存に関する人文社会科学分野の議論について」の報告・検討
- ・ 第86回 平成25年3月29日（金）13時～15時
「女性にとってのリプロダクティブライツの観点からの卵子凍結に関する議論」の報告・検討
- ・ 第87回 平成25年6月14日（金）14時～16時
「医学的適応および社会的適応による未受精卵（卵巣組織を含む）凍結と保存のガイドライン（案）」の報告・検討
- ・ 第88回 平成25年8月23日（金）16時～17時30分
「未受精卵子および卵巣組織の凍結・保存に関するガイドライン（案）」の提示と検討、最終案の作成

参考文献

- 1) Practice Committees of American Society for Reproductive Medicine; Society for Assisted Reproductive Technology. Mature oocyte cryopreservation: a guideline. Fertil Steril 2013 99(1):37-43.
- 2) ESHRE Task Force on Ethics and Law, Dondorp W, de Wert G, Pennings G, Shenfield F, Devroey P, Tarlatzis B, Barri P, Diedrich K. Oocyte cryopreservation for age-related fertility loss. Hum Reprod 2012 27:1231-7.